

令和8年度 第1回甲賀市図書館協議会 議事録

1. 日 時：令和8年8月5日（水） 午後7時～午後8時45分

2. 場 所：甲南図書交流館 視聴覚ホール

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 地村 千里 柴田 康彦 山添 智子
辻 聡 山中 ルミ 徳田 綾子 平林 秀樹
奥田 叔代 山崎 喜代美

【事務局】 福井理事 林課長
香取館長 田中館長 井口館長 篠原館長 澤田館長
小嶋係長

【傍聴者】 1人

4. 次 第

- (1) 開会
- (2) 市民憲章の唱和
- (3) 開会挨拶
- (4) 報告事項
 - ①令和7年度甲賀市図書館活動報告について
 - ②令和8年度甲賀市図書館実施事業計画について
 - ③貴生川駅前整備事業の現状報告
 - ④甲賀市図書館の在り方等検討についての現状報告
- (5) 協議事項
 - ①甲賀市図書館の在り方等の検討について
- (6) その他

5. 内 容

- (1) 開会
- (2) 市民憲章の唱和
- (3) 理事あいさつ
- (4) 会長あいさつ

・本屋にある無料の小冊子「新潮文庫の100冊」を紹介する。夏休み期間中、中高生や大学生に読んでほしい文庫の紹介として50年前から書店に並んでいる。50年続いていることに驚くとともに、本離れが進むこの社会で出版文化を支える取り組みの一つとして続けておられるということに感動した。皆さんも、是非、一度手に取っていただいて、今、中高生などに読んでほしい本はどのようなものがあるのか、また、皆さんが、昔読んだ本など再読することで、当時のことを思い出したり、新しい発見があるのではないかと思います。

・委員の皆様、本日の会議のスムーズな進行よろしくお願いします。

(5) 報告事項

(以降、会長により議事進行)

① 令和7年度甲賀市図書館活動報告について

[事務局から説明]

11頁の統計資料中、2箇所訂正あり。

S図書費欄の水口図書館6,150,087円を6,150,086円に、甲賀市域20,213,010円を20,213,009円に端数処理の関係で訂正依頼。

会長：今の説明について、意見・質問はないか。

委員：11頁の図書館費が昨年より1億円増加しているが、甲賀図書情報館の空調改修によるものか。

事務局：各館ともに老朽化が進んでおり、修繕等を行っているが、増加の主な要因は、甲賀図書情報館の空調設備の改修である。

② 令和8年度甲賀市図書館実施事業計画について

[事務局から説明]

会長：今の説明について、意見・質問はないか。

委員：4頁の年間スケジュールの「よみつがれてきた物語展」とはどういうものか。

事務局：名作といわれる図書を多くの方に読んでいただきたいという思いから、司書がおすすめする読み物を各館で展示しているもの。

会長：説明の中に紹介のあった、市民協働事業の友の会の活動として「図書館いこうば」を8月8日に開催する。今回は、平和への祈りを込めて、鶴を折る内容となっている。委員の皆さんも都合がつけばお越しいただければと思う。

③ 貴生川駅前整備事業の現状報告について

[事務局から説明]

会長：今の説明について、意見・質問はないか。

委員：駅前の広場にコンテナのようなものがあつたが、整備事業の一部か。

事務局：以前に、試験的にエッセイ漫画を置いたもので、今回の事業とは無関係である。

会長：ラーニングセンターと市内の既存の図書館とはどのような関係になるのか。

事務局：ラーニングセンター内の図書館として考えており、現在の図書館とは別として考えている。まだ、ラーニングセンターの位置づけについても確定したものはない。

会長：「学び」ということだが、学生や社会人などは日中は利用しないのではないか。図書館を普段から利用している人は行くかもしれないが、小説や絵本などが少ないのなら借りるものがあまりないのではないか。図書館と謳われると、市民からすると、現在の5つの図書館にさらに1か所増えると考え、誤解を招くのではないか。コンセプトは理解するが、実際の運用をどうするのか疑問である。先日開催された整備事業の意見交換会でも図書館を建てるのかと尋ねたが、はっきりした

答えはなかった。何も決まっていない段階なのに、市民の間では「図書館ができる」と一人歩きしている感じがする。

事務局：ラーニングセンターは「学ぶ」というコンセプトであるため、このような案としている。例えば、センター内にキッチンやスタジオ、ワークスペースなどを整備する構想もある。センターで学んだり、集ったり、いろんな可能性を含んでいる。日中、働き世代の方々が、コワーキングスペースとして活用されることも想定している。「学び」は、単に学習するだけでなく、今の図書館には無いような飲食ができ、寛げ、自分の時間を持てる場所として、目的がなくても、行きたくなるような、何か得られるものがある空間になることを目指している。

会 長：その考えは素晴らしいと思う。現在、そのような場所はないが、図書館という文言を入れることで、誤解を招くのではないか。従来の図書館と違い、学びの場というのであれば、図書館と謳わず、ラーニングセンター貴生川とした方がよいのではないか。

委 員：官民連携とのことだが、ラーニングセンターは公が担当するのか。

事務局：確定したものはないが、図書館部分については公が運営する予定である。カフェが入った場合は、その部分は民営となる。ただ、現在のところ、各々の面積や空間の区切りも確定していない。まずは、コンセプトをどのようにするかを決める段階である。

委 員：ラーニングセンターは、いつ頃開設になる予定か。

事務局：令和12年度の予定である。

委 員：今回の整備に関して、参考にしている自治体はあるのか。

事務局：新しい図書館像として考える中、職員も、複数の図書館へ視察に行き、新しい視点やいろんな要素を取り入れながら検討している。

委 員：民営は利益を追求するもの。私は学びの場として利用している「まる一む」は、安価で利用できる施設である。民営になることで、利用者の負担が増加することを懸念する。誰もが、気軽に利用できる施設になることを望む。

事務局：図書館部分については、もちろん無料である。民営になる部分については、サービスに応じて費用負担が生じる場合もあるが、多くの方に利用いただける施設になることを目指している。

④ 甲賀市図書館の在り方等検討についての現状報告

[事務局から説明]

会 長：今の説明についての意見・質問については、この後の協議事項で行うため、割愛する。

(6) 協議事項

①甲賀市図書館の在り方等の検討について

会 長：この協議については、貴生川駅前整備の件もあり、難しい部分もあるが、図書館協議会としての意見を集約し、結論をまとめてはどうかと考える。郵送による各

委員の考えは、3番の新中央館＋地域館・分館方式が良いとの意見が多かったようだが、これについて、何か意見等はあるか。

委員：地域館、分館の違いを再度確認したい。

事務局：現在の各館は地域館として位置づけている。分館は、現在よりサービスを制限したものになる。

会長：現在は、合併前の図書館をそのまま維持している状態だが、この先、5館をこのまま維持することは困難である。効率性を考えるなら、利用者も多い、水口に中央館を建設するのが良いと思う。統廃合を考えると、どのサービスを残すのか、どこを縮小するのかなど、委員の中でも様々な思いがあると思うが、協議会として、全体の方針をまとめなければならない。

委員：やはり、中央館は水口かとは思いますが、今のままでは狭く、老朽化も著しいことから、新築するとした場合、それだけの財源確保は可能か。それが可能であれば、新築し、他館は、サービスを駆使して地域の特色を活かした館にする。仮に書架のスペースを削減した場合、そのスペースを憩いの場にすると利用価値が生まれ、利用者も増えるのではないかと。そもそも財源の有無によって方針も変わってくる。

委員：社会教育委員の会議の議事録を見ると、他の自治体の図書館に視察に行かれ、何回も会議を重ねられている。提言書は8月か9月にまとめられると聞いているが、どの館をどうするまでのまとめではないと思うが。

事務局：委員の言われたとおり、どの館をどうするというのではなく、現行の5館体制にこだわらず、地域の特性を生かした持続可能な図書館運営を再検討するような提言になると聞いている。

会長：協議会のまとめ方として、中央館をどこに、どこが地域館、分館などの具体的なまとめではなく、我々の視点で、図書館に必要と思う機能、サービスなどをまとめて、図書館とは、こういうものであるなどのまとめ方でもよいと思う。まとめるにあたって、協議会とは別に小委員会を開催してはどうかと考える。

事務局：本協議会からは、要望的なものでも良いと考える。社会教育委員からの提言書、これから実施する市民アンケートと併せて、本協議会からの意見を踏まえ、総合的に判断し、再編計画に具現化していきたい。取り纏めていただく期限については、追って、お示しさせていただく。

会長：図書館に対する我々の思いを纏め、協議会として提案したいと思う。

委員：中央館ができるか否かもわからない状態。ある程度の方向性を示してもらわないと考えようがないのではないかと。

会長：意見のまとめは、図書館に必要と考えるサービス、希望するサービスなどを出し合えばどうか。改めて、小委員会を開催することでよいか。

委員：了解

事務局：開催については、別途、会長と相談させていただきます。

会長：以上で議事を終了する。

6. 閉会

副会長あいさつ

- ・図書館雑誌の中で、市民が作る図書館として、宮崎県都城市立図書館が掲載されていた。商業施設を改築し、図書館にされており、面積も広く、デザインも斬新で素敵な図書館である。市民参加のイベントの一つとして、書店や業者が勧める本を図書館へ持ち込み、職員が現物を見て、購入を決める見計らいというものがあり、通常、図書館の職員が行っているが、それに市民が参加されており、私も是非参加してみたいと思った。職員とは違う目線から見ることで、違った蔵書構成になるのではないかと思う。
- ・本日は、お疲れ様でした。